

# 「足と靴」・相談会 & 学習会

午前の部(10:00~12:00)

## 足と靴のお悩み無料相談会

こんなお悩みはありませんか？



足に合う靴がなくて、いつも靴選びに困っている。

健康のために歩くように言われるが、

歩くと膝や足が痛い・・・など、

足や靴のことでお困りのことはありませんか？

足の状態や歩き方、ご使用中の靴を拝見し、

トラブルの原因を探り、改善するための方法を  
アドバイスいたします。

靴のはきかたや歩き方を、

ちょっと気をつけるだけでも  
足が楽になり、歩ける距離が長くなります。

健康にとって大切な足と靴のこと、

ご一緒に考えてみましょう！

事故や病気による、足の変形や

脚の長さの違いなどで、歩くのが難しい方、

リウマチで歩ける靴がない、

装具をつけてはける靴に困っている・・・などのご相談もどうぞ。

11月30日(日)  
10時～12時  
新宿区落合第二  
地域センター  
2F 小会議室

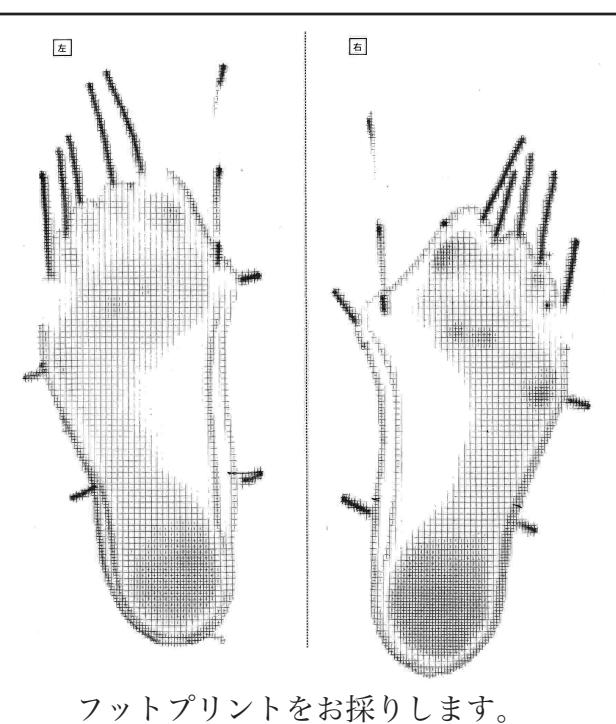
参加申し込みは  
03-3952-2414

お一人ずつ  
ご相談をお受けします。

必ず、ご希望の時間を  
ご予約ください。

(靴の販売は致しません)

大江戸線 落合南長崎駅から



フットプリントをお採りします。



# 「足と靴」・相談会 & 学習会

午後の部(13:30~16:30)

共催：療養費の公正な支給を求める会

## 「治療靴」についての学習会

日本では、「軽くて楽」とか「脱ぎ履きが簡単」とかが靴の宣伝文句になっています。もっとも、中には「外反母趾用」とか「膝痛に効果」とかを謳う「健康志向」の靴も見受けられます。

しかし、それらも含めて、「靴」はあくまでも日常の履物以上ではなく、医師が治療のために「靴」を使うというようなことは、ほとんど聞かないと思います。

第1部では、日本では珍しい「靴による治療の効果」の実例を紹介し、そこから見えてくる日本人の「靴」に対する誤解と、日本の医療における「治療」の問題性についてを、学びたいと思います。

実際、日本では、「治療に使う」のは「靴」ではなく、靴の代わりに履く「靴型」の「装具」です。そのため、靴の専門技術者ではない義肢装具士が提供するのが一般的なことから、「靴型装具は提供できない」という装具業者も珍しくありません。

さらに、日本では、医学教育において装具療法の分野が盛んでないことと、義肢装具士の資格が、名称に反して装具による治療に責任を持つという意味での医療資格でないことから、靴だけではなく治療用の装具全体に関して多くの誤解が生じています。

第2部では、特に保険医療制度の中での「治療用の靴」の実情から、現在問題になっている「療養費」をめぐる混乱の真相についてを、学びたいと思います。

### 第1部 「靴による治療の効果」の実例 13:30-14:30

- (1) 靴による「治療」とは？
- (2) 効果の実例
  - ① 外反母趾や足底の痛み
  - ② 踵の痛み
  - ③ 膝の痛み
  - ④ 歩行の困難 他

質問と休憩(と相談) 14:30-15:00

### 第2部 保険医療制度の中での 「靴」の実情について 15:00-16:30

- (1) 「靴型装具」とは？
- (2) 補装具と治療用装具
- (3) 靴だけではない「治療用装具の事情」と療養費問題

11月30日(日)  
13時半～16時半  
新宿区落合第二  
地域センター  
2F 小会議室

参加申し込みは  
03-3952-2414  
(参加は無料です)

大江戸線 落合南長崎駅から



### ドイツ整形外科靴技術

靴総合技術研究所が依っている技術は、第一次世界戦争後のドイツで生まれた福祉と医療のための靴技術です。

ワイマール共和制時代に、戦傷者の社会復帰のための福祉技術として生まれ、第二次大戦後、東ドイツの社会主義福祉制度と、70年代西ドイツの社会民主的福祉政策のもとで成熟した、足・脚の障害、疾患に対処できる靴の技術です。

日本の障害者福祉制度の中には導入されませんでしたので、その実像については、医療、福祉関係者にも、ほとんど知られていません。

